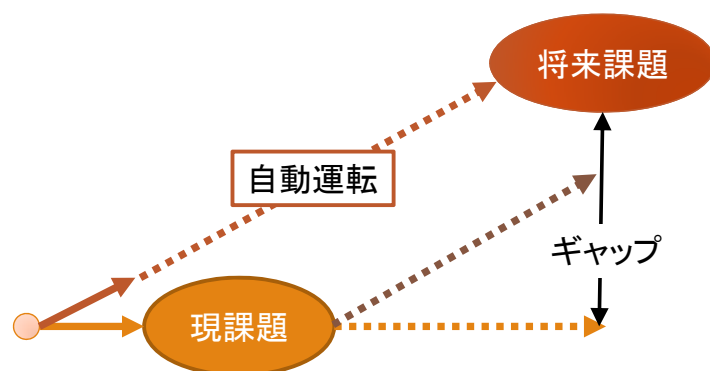


地域公共交通の課題の今と将来

- 高齢者への対応
 - 免許を持っていない人たちへの対応
 - クルマをやめた(る)人たちへの対応
 - ラストマイル
- 公共交通不便地域への対応
 - 縁辺部・郊外集落(元々公共交通が不便)
 - 公共交通が無くなってしまった地域

- 人口減少
 - 太い線の弱体化(通勤・通学減)
 - 運転手不足
- ライフスタイル変化・健康増進
- 技術革新への対応
 - CASE, MaaS
 - IoT, 5G, キャッシュレス
- 国際化
- 地球温暖化対策

- ↓
- コミュニティバス
 - 低い利便性
 - 財政負担
 - デマンド交通
 - 予約の壁
 - 変わらぬ財政負担
 - 利用の偏在
 - 薄い存在感
 - 目的の創出



自動運転に対する期待

- 将来課題への対応 → 将来の現実を念頭に
 - 地域公共交通への位置づけの明確化
 - 今から、その枠組みの構築(まずは手動運転で)
 - 鉄道, 幹線バス, 支線バス, デマンド, タクシー, PM(自転車, キックボード)で構成
 - 自動化による太い線のサービス向上→細い線も太くなっていく
- 何ができるか? → 何が欲しいか? → 地域によって異なる
 - メーカー: 利用者目線の反映
 - 地域: どんな自動運転があると良くなるか?
 - 歩行者と一緒にゆっくりと走る乗物?
 - 裏路地にも入ってくる乗物?
 - 専用レーンを高速で走る乗物?
- 自動運転の導入で社会全体を良くする → 自動運転のみで考えない
 - 自動運転の一人勝ちの絵を描かない
 - 時には、個別車両の制御による交通流全体の円滑化 → 信号制御も
 - 既存公共交通との連携による公共交通トータルでの魅力アップ